

2023(令和 5)年度京都大学図書館機構活動報告

2024 年 4 月
京都大学図書館機構

1. オープンアクセスの推進と研究活動支援

(1) EJ 転換契約の拡大

2023 年 1 月から Wiley 社との契約、2024 年 1 月からは SpringerNature 社との契約において、電子ジャーナル購読料と APC (Article Processing Charge : 論文処理費用) を包括した転換契約を導入した。また、Elsevier 社との契約においても、図書館協議会等学内での議論を進め、2024 年 4 月から転換契約を導入する予定である。

(2) 京都大学附属図書館における研究データ管理・公開に関する実施方針の制定

「京都大学研究データ管理・公開ポリシー」に基づき、部局としての附属図書館での研究データの取り扱いに関する考え方を示す「京都大学附属図書館における研究データ管理・公開に関する実施方針」を 2023 年 9 月に策定した。

(3) RDM 支援実践事例の日本語化事業が国立大学図書館協会賞を受賞

「GakuNin RDM を活用した大学間共同作業：海外における RDM 支援実践事例の日本語化事業」が令和 5 年度国立大学図書館協会賞を受賞した。

(参考) 海外における RDM 支援実践事例の日本語化事業ワーキンググループ (京都大学図書館機構、大阪大学附属図書館、神戸大学附属図書館、奈良教育大学図書館、奈良女子大学学術情報センターの共同事業) 『データ管理で研究者と協力するために：クックブック』 <https://doi.org/10.14989/267606>

(4) ウィーン大学との研究データ管理等についての意見交換

京都大学と戦略的パートナーシップ校のウィーン大学との国際協定に基づき 2023 年 6 月に職員を派遣し、研究データ管理等についての研修プログラムに参加した。また、2023 年 8 月には、国立情報学研究所公募型共同研究「大学における研究データマネジメント支援サービスアーキテクチャに関する国際比較研究及び開発方法論の整備」の一環として、ウィーン大学研究データ管理担当者を招へいし、研究データ管理等について意見交換を行った。



2. 学修・教育支援の推進

(1) 図書館機構 YouTube チャンネルの開設

図書館講習会のDX推進の一環として、講習会動画等を広く公開するプラットフォームの整備と合わせ、学内図書館・室で連携してコンテンツを作成する体制を構築した。

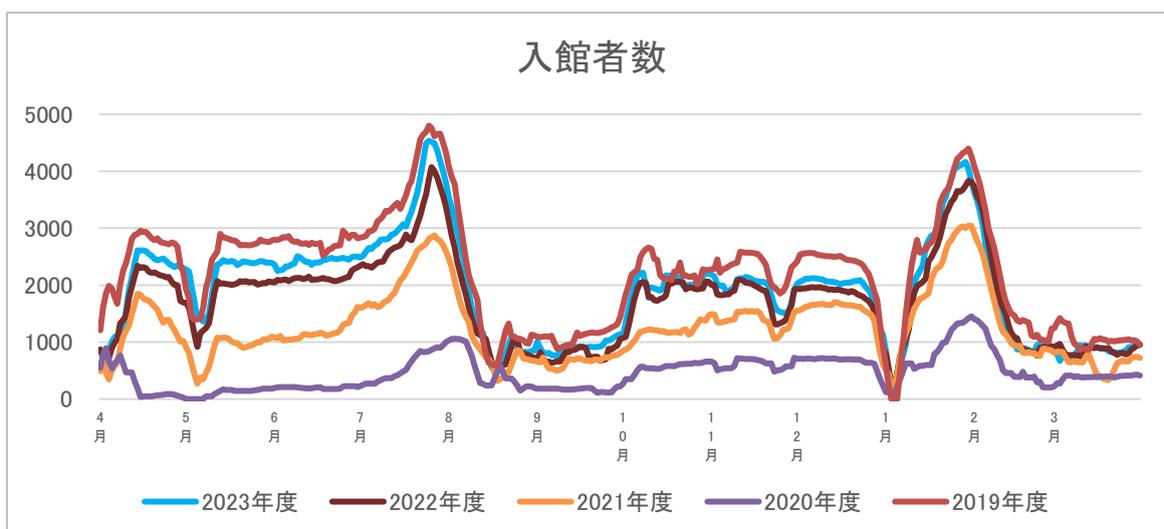
(参考) 京大図書館きこうチャンネル

<https://www.youtube.com/@kulibrarynetwork/>



(2) ポストコロナの図書館利用状況

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、各図書館・室においてサービスの見直しを行った。一例として、附属図書館では5月連休明けをもって、閲覧空間の利用制限や消毒実施等の対応を取りやめ、従来のサービス体制に戻した。入館者数は、2024年3月末時点で、コロナ禍前の2019年度の8割6分程度までに回復している。



3. 豊富な学術資源の活用と社会貢献

(1) 貴重資料電子化の推進

仏教学研究の基盤的資料であると同時に、世界の漢籍研究においても重要な資料である附属図書館所蔵「蔵経書院文庫」から、262 タイトルを新たに電子化・公開した。このことにより、仏教学及び関連分野の研究活動に貢献した。また、文学研究科が所蔵する重要文化財『大日本史編纂記録』第51冊から第55冊までの214画像や東南アジア地域研究研究所所蔵「景福寺資料」全98点も公開した。

- (2) 教員・院生と連携した「菊亭文庫」調査の実施
大正年間に寄託された「菊亭文庫」1,833 点が、2020 年度に寄贈されたのを機に、2021 年度から学内の教員・院生と図書職員が連携して、悉皆調査と目録作成を開始した。これにより、教育での史料活用や図書職員の古典籍に係る知識の向上を実現している。なお、調査成果は 2023 年度以降の公開を予定している。



(参考) 菊亭文庫 <https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/collection/kikutei>

4. 全学図書館機能の基盤整備

(1) 京都大学図書館機構長賞の創設

京都大学図書館の機能向上に貢献し、本学所属の学生教職員の学術研究を促進した図書館活動、もしくは本学図書館の有する資料等を活用し社会貢献を行った図書館活動を表彰するために京都大学図書館機構長賞を設けた。令和 5 年度の選考を実施し、6 件の活動に賞を授与した。

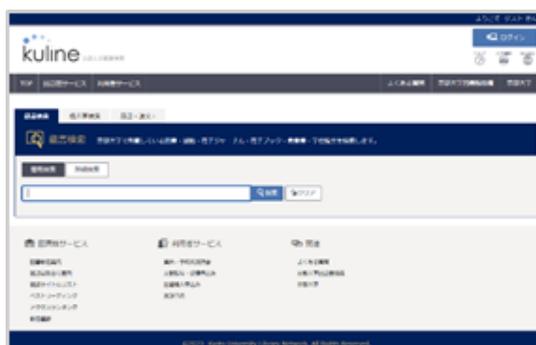
(参考) 京都大学図書館機構長賞

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1398532>



(2) 図書館システムの全面リプレイス

2023 年 8 月に図書館システムのリプレイスを行い、入札の結果、富士通 Japan 社の iLiswave-J から NEC キャピタルソリューション社提供の E-Cats Library に変わることとなった。昭和 60 年の初期導入以来、富士通社の図書館システムを使用してきたため、約 40 年ぶりの全面リプレイスとなった。そこで、各局部図書館・室から 20 数名の図書系職員を集結した図書館システム検討 WG を組織し、この大プロジェクトにあたった。2023 年 1 月以降、要件確認、機能設計、

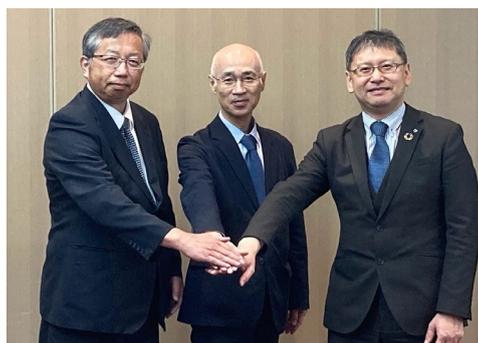


マスタ・移行設計、評価環境でのテスト、基本操作マニュアル作成、職員向全学移行等々、約 8 か月にもわたる移行準備作業を乗り切り、2023 年 8 月に E-Cats Library での業務を無事にスタートさせることができた。

新 KULINE（京都大学蔵書検索）では、他キャンパス図書の予約・取り寄せが便利になったほか、オンラインで施設予約開始、レスポンスデザイン対応によるスマートフォンでの操作性改善など、利用者サービス向上を達成した。

(3) 京阪神 3 大学図書館の連携・協力活動に係る協定書の締結

京阪神の 3 大学図書館（京都、大阪、神戸）が新たな大学図書館機能の実現に向けて連携・協力して取り組むための協定を 2023 年 6 月に締結した。3 大学の図書館職員が、現場レベルで交流・協働することによる、業務の省力化・高度化を図ることを目的としている。主な連携・協力事項として、学術情報資源の確保（電子ジャーナル契約等）、学術情報資源の創出（デジタルアーカイブ等）、研究成果発信の支援（機関リポジトリ等）、ライブラリー・スキーマの検討、共通項目による利用者アンケートの実施などに取り組んでいる。



協定式で手を重ねる土佐神戸大学附属図書館長、永盛京都大学附属図書館長、尾上大阪大学附属図書館長（左から）



京阪神デジタルライブラリーのロゴ

5. 各図書館・室の主な活動（機構サイトのニュースから）

- ・ 吉田南総合図書館で「大学でレポートを書くために」「パーフェクトなレポート執筆のための引用の書きかた」を開催した（オンライン開催）（2023.4）
- ・ 経済学部図書室で総合企業情報データベース「eol」講習会を開催した（2023.4.27、2023.11.29）
- ・ 教育学部図書室でデータベース 2 件が利用可能となった（2023.5.29）
『性風俗稀少雑誌コレクション』『市川房枝資料 1905-1946（オンライン版）』
- ・ 吉田南総合図書館で、卒論・修論執筆応援キャンペーン～レポート・卒論に役立つ資料集め講座を開催した（2023.6.29-8.26）
- ・ 文学研究科が所蔵する重要文化財『大日本史編纂記録』第 51 冊から第 55 冊までの 214 画像を公開した（2023.7.5）
- ・ 薬学部図書室に「Diversity, Equity, Inclusion (DEI) 関連図書」コーナーを設置した（2023.7.23）
- ・ 大型コレクション収集計画に基づき、人間・環境学研究科と文学研究科が共同購入したデータベースが利用可能となった『MEMSO: Medieval and Early Modern Sources Online』（中世・近世歴史研究資料文献オンライン・データベース）（2023.7.27）
- ・ 東南アジア地域研究研究所所蔵「景福寺資料」全 98 点を公開した（2023.7.31）

- 桂図書館で「ヴォイスオブアース デザイン小委員会 (VOE) 展」を開催した (2023.9.13～2023.10.2)
- 経済学部図書室で企画展示「経済×SDGs」を開催した (2023.10.2～2023.11.30)
- 経済学部図書室で「在架予約」サービスを開始した (2023.10.23)
- 医学図書館で医学系 DB オンライン講習会を計 5 回開催した (2024.1-2)
- 吉田南総合図書館で「レポート・論文執筆 これだけ押さえる！」を開催した (オンライン開催) (2024.1.18、2024.1.19)